

埼玉 労山

埼玉県勤労者山岳連盟機関紙 発行:武笠真次
 〒336-0011さいたま市浦和区高砂 4-1-5 ふじビル2階 編集:澤藤俊昭
<http://www.justmystage.com/home/tozans/index.html>
<http://www.justmystage.com/home/tozan/>

- 1) 労山創立50周年記念講演会
- 2) 労山創立50周年記念レセプション、組織担当者会議に参加して
- 3) 埼玉勤労者山岳連盟・第1回評議会報告
- 4) 県民クリーンハイク報告(南部、北部ブロック)
- 5) 登山学校 6月講座「計画から下山まで」に参加して
第10回遭難防止・安全教育担当者会議報告
- 6) 加盟団体の動き、夏山計画、他

日本勤労者山岳連盟

創立50周年記念行事

講演会と記念レセプション

5月30日(日) PM2:00~、PM6:00~

多彩な登山運動の到達点から新たな労山運動を

そして新しい出会いと感動を伝えよう!!

全国3か所で日本山岳協会と共催した国際山岳連盟登山委員

スティーブ・ロング 氏の記念講演会が象徴的で好評でした。

(早稲田大学準教授大和田英子氏(労山会員)による通訳でスティーブ・ロングの紹介がはじまり、日本山岳協会・会長田中文男氏からは、このような立派な五十周年記念講演が労山と一緒にできたことを深く感謝すると共に誠におめでとうございましたと挨拶を頂きまた、関西大学教授青山千彰氏から遭難対策に関わるお話しとお祝いの言葉を頂いた。会場の席は最初まばらで大丈夫かなと心配したが徐々に時間とともに席はほぼ埋り、安堵の感であった。(埼玉労山の正式な参加者数は把握できていないが十数名くらいだったと



(社)日本山岳協会と日本勤労者山岳連盟創立五十周年を記念し、東京講演会が五月三〇日(日)午後二時から早稲田大学国際会議場(井深大記念ホール)にてJMA登山者教育のスタンダードを学ぶ「JMA(国際山岳連盟)登山委員スティーブ・ロング氏講演会」が共催され、多くの会員と登山関係者が参加した。

記憶している。)

三十年以上にわたり登山教育に関わっているスティーブ・ロング氏は英国登山リーダー教育機関の代表で、JMA登山委員会の登山指導の標準化グループの代表も兼ねていて、現役のトップクライマーに登山リーダー教育と英国登山事情について講演して頂いた。

講演の内容は、JMAの活動について述べられ、標準指導者育成要綱の発展、二〇〇五年の研修で決定した事項、標準指導要綱を提供する理由、提供されている標準指導要綱一覧表、各会団体に求められること、これまでプログラム認定を受けた国と団体名、現在・認定作業中の国と団体名、標準指導要綱を準備する人たちはどんな人たち? 専門委員はどのように選定されるのか? 標準指導者作業部会の任務と委員一覧、応募要綱、評価のための実地調査(任意)、許可可を与えるには、プログラム評価

を求める際の必要事項、教

習テキストについて「評価過程、審査過程、審査(査定)委員の適格性」等…。次にはイギリスの山岳リーダー養成機構について詳しく述べられ、使命、歴史、イギリス国内での調整、名称の統一、公式認知、国全体を代表する仕組みと統括する仕組み、統計、基本となる活動訓練機構への支援と資格の品質保証、継続的な能力開発、出版物、行政支援及び共同事務所、財政、アドバイザリーセンター、重複を避けるためには、リーダー適格者とは、10の国家資格種類(里山ハイキング、山岳、冬期山岳、国際山岳、人口壁クライミング、シングルピッチ・クライミング、人口壁リードクライミング、登山指導者、登山指導者(夏期)、登山指導者免許証)、他機関により認定される資格「国際山岳ガイド連盟公認山岳ガイド、初級縦走リーダー

資格(ABELL)、地域認定システム、MTLと地域の研修システム、地域研修システムの範囲「イギリス国家規模の団体「3つの国家規模の山岳団体、どこが何をするのか? 成功した目的」ボランテア・リーダー及び指導者育成のための国際山岳連盟標準指導者育成要綱等…。事前に質問が寄せられA・低体温症とは何か? 低体温症の原因、低体温症を防ぐには、低体温の手当て、B・高齢者がハイキングをはじめの際の教習方法は? について説明等あった。



挨拶する斎藤理事長と日山協・田中会長

創立五十周年 記念レセプション

五月三十日(日)記念講演会を終えて、午後六時から早稲田大学大隈講堂近くのリーガロイヤルホテル東京ロイヤルホールにて創立50周年記念レセプションが開催された。



司会に山梨山の会・塩澤良雄氏(全国理事)、三郷山の会・佐藤久子氏(埼玉労山理事)によるとても上手な司会進行で創立五十周年記念レセプションが始まった。

日本勤労者山岳連盟・西本武志会長からは労山の歴史について、日本勤労者山岳連盟の母体となった「勤労者山岳会」が創立された一九六〇年五月、伊藤正一が二年間練り上げた「勤労者を主人公とする新しいタイプの山岳会づくり」構想到に賛同された深田久弥氏や田中澄江氏など著名な学者・文化人一六氏の発起人によって出来たお話し等の

開会のあいさつを頂いた。

来賓ご祝辞(日山協会

長・田中文男氏、高橋伸行

氏等)と海外からの来賓ス

ティーブ・ロング氏、ガネ

ツシュ・ヨンザンタマン

氏:ネパール駐日大使、台

湾山岳協会、香港山岳連合)

の紹介があった。沢の井酒

造のたる酒が左右に置かれ、

鏡開きが労山会長、来賓、

海外の来賓で執り行われ、

乾杯。(歓談)

岡山県連の加治郷子さ

ん(ソプラノ)と湯浅加奈

子さん(ピアノ)の歌とピ

アノ演奏アトラクション)

が行なわれ、素敵なお声

が会場いっぱいに響きわた

った。創立五十周年記念レ

セプションに参加された歓

談の方々の気持ちを和ませ

た。映像で振り返る労山五

十周年があった。功労者へ

の感謝状贈呈が海外来賓や

労山関係者から行なわれた。

みんなと一緒に歌おうでエーデルワイスや岳人、見上げてごらん夜の星を等、会場の歓談されている方々が熱唱して労山創立五十周年記念を祝した。

埼玉県連からは理事六

名(武笠、木阪、徳重、尾

手、矢崎、佐藤)他に三郷

山の会から山中氏、あすな

る山岳会から高梨氏の計八

名の参加があった。



全国組織担当者会議に参加して

「個人会員制度」導入と今後の労山組織強化について

その必要性と意義、基本的な考え方と概要が提案され

多くの課題を残しながらも導入の方向性で 全国討議へ!

5月29日~30日、全国組織担当者会議に初めて参加しました。北は北海道、南は沖縄から32団体約49名が東京飯田橋の労山事務所に集まり、埼玉からは理事長、副理事長2名、事務局長、理事2名 併せて6名が参加。参加者の殆んどが男性で女性は4人ほどでしたが、県連、各会の会長、担当者、事務局長などの熱い意見を生で感じることが出来ました。

会員の高齢化等により会員数の減少は労山の危機を招き、このまま減退を続けると消滅しかねない登山文化。個人会員制については実に沢山の意見と質問が出ていましたが、会議に参加された方達は今回の内容を持ち帰り、それぞれの県連や加盟団体で今後討議される事でしょう。

しかし、残念な事に49県連盟中残りの17県連は欠席でした。諸事情はあると思いますが、代理の方でも来て頂き、この会議の仲間の声が伝えられたら良かったと思いました。

参加できなかった県連や会の方達にも伝わってこそ、初めてこの組織担当者会議が遂行されたと考えます。昨今は便利な電子媒体で伝わる事は単なる連絡に過ぎないと思いますし、日本勤労者山岳連盟に加盟しているならばぜひ、声を聞いて、声を出して、自分達が労山の組織に残していけるものを少しでも多く、またより長くという気持ちを持ち続けたいと思います。

県連として、第1回評議会で経過報告をおこない、今後も個人会員制について継続して討議し検討していく方向ですが、加盟する各会や各ブロックで、また理事会で真剣に考えていきたいと思っています。

組織担当委員 佐藤久子

埼玉労山 第一回評議会開催

全国組織担当者会議の報告から

会員減少に歯止めを！

組織の強化と個人会員制度導入に向けた提案に
多くの意見と考え方、課題が示される。

去る六月二十日、大宮の高鼻コミュニケーションセンターに於いて、埼玉県勤労者山岳連盟第一回評議会が開催されました。開催に先立ち、急逝されました飯能労山の坂下五郎さんに対し、追悼の報告があり、全員で黙禱を致しました。

会議は、評議員出席十六名、理事十三名。上福岡山なみハイキングクラブの佐藤さん及び、新座山の会の杉江さんの議長。ハイジアルペンクラブ遠藤さんの書記の下で、行なわれました。まず、武笠理事長の挨拶に続き、第一議題として、先に行なわれた「全国組織担当者会議」についての報告がされました。この中で、全国規模で最近十年で二十人の会員が減少しており、将来的に新特別基金、さらには労山組織自体の危機であることによる、個人会員制の必要性。埼玉県連では登山学校や県連・各会のH



P効果で、ある程度の歯止めがあるものの、同様な傾向があり、登山の文化としての意義、安全登山を目指す必要性からも三年を目処に検討し、県連としての方向性を会員の皆さんの意見を受けて決めて行きたいとの説明がありました。

第二議題である「埼玉労山規約の改正では、第四章「役員」の第十四条、及び「役員選出規定」の第十二条の改正。「埼玉労山救助隊規定」では第七条・第八条・第苦情の改正について説明があり、来年三月に行なわれる県連総会において正式決定されることとなりました。また、同時に会員

により組織が弱体化することも懸念。「青年層と中高年層とで、青年層をター

外の「救助要請依頼書案」も発表されました。質疑応答では、「新特別基金について(全国組織担当者会議において)何か討議されたのか?」「実力が判らない個人会員の山行管理はどうするのか?山行計画書が出ていけば認めるしかないのではないのか?新特別基金の口数は三口で良いのか?」「特別基金目当ての入会者が多くなると思われるが、連盟費を払わない者に対して、県連はどう対処するのか?」「新特別基金、山行管理など実際の規制・年齢制限等に不安」「東京都連がどういう方法で先行するのか?」「このまま会に報告しても判りづらいので、リスクとメリットや我々の責務などのリストアップをしてもらいたい」「会員数を増やす必要があることとは理解するが、個人会員と組織会員が共存すること

後半は、第三議題である、各専門委員会よりの報告があった。

【遭難防止・安全教育担当】午前中に行なわれた担当者会議の内容説明。ヒヤリハットや各会の山行計画書の特徴など。【自然保護委員会】植樹祭・クリーンハイクの報告。古いゴミが沢や土の中から多く出てきており、今後行政との協力も必要ではないか。腕章・名刺などでPRすることで会員増加にも繋がるのでは。【救助隊】第二回救助隊役員会報告。関東ブロック深雪搬出訓練報告書一〇〇部作成・配布。【女性】五年連続体力測定を五月に実施。

【事務局】加盟団体の役員等が変更された場合、速やかに「加盟団体調査表」を提出して貰いたい。以上、個人会員制度の導入が提案されたこと等があり、色々な意見や案が出され、有意義な評議会となりました。

今年もセルフレスキューを実施予定。【ハイキング】新体制で、少しずつでも活動していく。全国ハイキングリーダー学校への参加。【沢登りネット】現在登録十八名。第一回はナメラ沢。九月は大荒川谷・宝川が候補。十月頃より雪山ネットも開始。【登山学校・HP】登山学校年間受講者二十八名。うち十九名が労山会員。HPの掲載情報が来ないと更新できないので、情報提供を。【機関紙】加盟団体の活動状況を毎回入れたい。



南部ブロック

県民クリーンハイク

奥武蔵・伊豆ガ岳東尾根→正丸峠

6月6日 4団体 27名参加

三年連続雨のクリーンハイクな気配だったが、幸い、曇り空で快適な「ゴミ」拾い日。今回のコースは、西吾野駅から国道を右折して花桐コースの途中から東尾根を登り、伊豆ガ岳の山頂を目指す。東尾根コースは昭文社の地図にも記載されていない尾根道で、急坂な登りの連続。登る登山者も少ない為かゴミは殆どない。昼食後伊豆ガ岳山頂付近で若干の可燃ごみを拾うが、意外とゴミは少なく綺麗。下りは正丸峠を経由し正丸駅に下山するが、下山途中の小高山に来ると、斜

面全体にゴミが点在し瓶は割れて土中に埋もれていた。懐かしいスチール缶も土中に多く目立つ。

割れた瓶をぶら下げて歩くと太もも辺が痛い。ザックに入れる必要を感じた。小高山付近がクリーンハイクの本音か？全体を振り返ると、国道沿いは想定通り、タバコの吸い殻が歩道に散乱していて運転手のマナーの悪さが目につく。登山道はペットボトル等以外にゴミは少なかつたし、山頂付近は全体に清掃されていた感じがする。正丸駅でゴミの分別をして回収まで一時預かりをお願いした。正丸駅前で各会のリーダーから本日の反省を述べていただき、次回のクリーンハイクも大勢の参加を願って散会した。

*参加団体と参加者数

- わらび山の会 6名
- あすなる山岳会 1名
- 芝ハイク 6名
- 三郷山の会 14名



総計4団体 27名

*ゴミ回収結果

- 燃えるゴミ 紙、他 6袋(13kg)
- ペットボトル1袋(1kg)
- 燃えないゴミ
- ビン 2袋(2kg)
- スチール缶4袋(11.5kg)
- アルミ缶1袋(1kg)
- 合計 42.5kg

南部ブロック 三郷山の会 富田 皓(記)



北部ブロックのクリーン

ンハイクに、秩父アルペンクラブ、ハイキングクラブ上里、深谷こまくさ山の会、熊谷トレッキング同人の4団体から総勢25名ほどが参加しました。

今回のコースは、「長瀨アルプス」として整備されたハイキング道から宝登山頂を経由し、山麓にある国指定重文・旧新井家住宅まで。この日も、青葉の繁れる中を多くのハイカーが行き交っていました。

しかしゴミはほとんど残されておらず、回収量はかなり少ないものでした。可燃物が8個、カバンが5個、そしてビンは2個。

長瀨町役場前を出発した私達は、二手に分かれました。一方は、ハイキング道の起点・萬福寺からもう一方は長瀨第一小の脇から氷池を通

するコースです。氷池とは、名物となっている天然氷が切り出される露天プールです。

合流後、宝登山裏参道の急な階段道を登り切った。山頂に到着しました。昼食の後は、登山トレッキングに關してのレクチャーを受け、また宝登山表参道を下りながら、同山の植生について、詳しくお話を聞かせてもらう機会もありました。

ロープウェイ山麓駅駐車場から見頃をむかえたハナビシソウが咲く花畑に臨む旧新井家住宅へは、小高い野土山を超えて行きました。この山こそ、かつては「通り抜けの桜」と呼ばれていた桜の名所。観光コースから外れ、いつでも静かな散策が楽しめる所です。

北部ブロック

秩父・長瀨アルプス→宝登山

6月6日 4団体 25名参加

県民クリーンハイク

り、ハイキング道に合流

*コースタイム



長瀨町(9:00/9:25)・・・氷池分岐(10:30/10:45)・・・宝登山参道入口(11:15/11:25)・・・宝登山(11:45/13:00)・・・宝登山ロープウェイ山麓駅(14:20)・・・旧新井家住宅(14:40)

熊谷トレッキング 朽原 記



登山学校 第1回 計画から下山まで

6月12日(土)

登山学校が始まる。今日は机上講座、事故や遭難を起ささないこと。その為には、登山の基本的なルールやマナーを守り、無事に下山そして報告すること。テキストをもとに

山行計画
装備の確認
食料と食事
山での歩き方
道に迷わないために
体力の低下
山での救急法
天気予測などを学ぶ。
登山をする者の心構えとして大事な事だと思おう。

6月13日(日)

大平山で学習登山。受講者は4班に分かれ担当運営委員と一緒の行動となる。JR大平下駅で体操、10時すぎに目標地の大中寺から清水寺へと地図を手に樹

林の中や舗装道路を歩く。雨の心配は無いがちょっと蒸し暑い。清水寺で伊藤講師から山での歩き方について実技指導を受ける。

1. 歩幅は狭く
2. 軸足にしっかりと体重をかける体重移動
3. 靴底全体を地面にフラットに置く
4. 膝を軽く曲げ弾力を持たせる...など。

此処から晃石山までは登りが続く。先に学んだ事を頭と体で繰り返し、歩くように努めそれに合わせて呼吸リズムも意識した。

どうにか息の乱れも覚えず神社に到着。強い日射しを避けてゆつくりと昼食。その後は背中也気分も軽く大平山まで雑木林の尾根道を通った。陸の松島とも呼ばれる謙信平からの眺めと、茶店のダンゴ、ヤキトリ、タマゴ焼き3点セットの旗に心が少し揺れた私です。下りでもすべらない歩き方の実技が有り、最後迄大事な歩き方について学ぶことが出来て、今後しっかりと身につけていきたい。講師及び運営委員に深く感謝いたします。

三郷山の会

佐藤 幸子 記

第十回遭難防止・安全教育担当者会議

六月二十日(日) 高鼻コミュニケーションセンター

第十回遭難防止・安全教育担当者会議が六月二十日(日)九時三十分〜十二時、大宮の高鼻コミュニケーションセンターで十三団体二十四名の参加者で行われました。

【議題 一】ヒヤリハット(五月連休中での出来事)について!
「熊谷トレッキング同人」より 北アルプス・白馬での山スキ、八甲田山での山スキ、火打山・焼山での山スキ、三件の報告を当該団体の南雲氏から報告を受けました。

【議題 二】トムラウシの遭難事故を考える!
登山時報五月号に掲載された報告文を徳重救助隊長が紹介し、トムラウシ遭難事故を考える「シンポジウム」から意見を交換した。

その中で「三郷山の会」の浦川氏よりトムラウシ遭難事故の一週間後に同ジャンルを会が登山していたので、コースの日程、装備、

コースの日程、

装備、

食料についての報告があった。

また、ツアー登山について登山時報の記事にも載っているが、アルパインツアーサービスク代表取締役の黒川恵氏が日本旅行業協会の「ツアー登山運行ガイドライン」を守れば事故を防げる。重要な点は「疲労困憊の参加者を漫然と歩行させないことだ」と言っている。この報告資料から、ツアー登山についても意見交換しました。

尚、参考に(社)日本旅行業協会「ツアー登山運行ガイドライン」全13P、コース難易度「コースグレイド」及び引率者比率(ガイドレシオ)はインターネットで検索すれば内容がわかります。

【議題 三】遭難の原因は次回に継続。
【議題 四】山行計画書について!

各会より持ち寄ってもらった各会の計画書用紙を参加者にコピーを配布。

提出参加団体は十一団体、その中で各会からの意見をもとに討議した。

様式はパソコンでプルダウンにて簡単に書ける、ルート図を掲載できる、装備表は別にある等様々である。登山主体やハイキングが主体かによっても山行計画書の中身も当然違ってきます。各会はこれらを参考に山行計画書が山行届にならないようにしてもらいたいものです。

教育遭難対策担当理事

尾手利雪 記

全国女性担当者会議 開催!
期日 6月26日~27日
報告は8月号で

*7月~8月の県連活動 予定!

- 7/1 三役会議
- 7/3~4 登山学校 「登山と運動生理学」
- 7/12 救助隊 沢技術学習会
- 7/18~19 岩ネット(那須・井戸沢)
- 7/28 第5回理事会
- 7/31~8/1 理事会合宿(葉留日野山荘)
- 8/5 三役会議
- 8/7~8 登山学校 「山での救急法」
- 8/9 沢ネット打ち合わせ
- 8/22 沢岩ネット合同沢登り 奥秩父・ナメラ沢
- 8/25 第6回理事会

登山学校 第2回講座「登山と運動生理学」

7月3日(土)机上
7月4日(日)実技...奥武蔵・棒の折山
無事 終了しました。

加盟団体の動き

南部ブロック 三郷山の会

三郷山の会は4月の総会で決定・承認された計画を達成することを目標に一年の活動が開始されます。

また、「会員は必ずどこかの専門部または事務局に所属して会を盛り上げましょう！」という会の方針に従って、お互いに協力して会の運営にあたっています。

山行内容としては、日帰り山行、泊まり山行、企画山行（教育山行）が毎月計画され、これに南部ブロックの交流ハイキング・スノーシューハイクや自然保護部主催の旧足尾銅山の植樹（秋に会独自で実施）などが加わり多彩な山行が計画されています。

会員のレベルアップを指して登山学校へも積極的に参加しており、今年には運営委員4名、受講者5名を送り出しています。

今年度は既に公開ハイキング（那須・茶臼岳）やクリンハイキング（奥武蔵・伊豆ヶ岳）を実施しており、嬉しいことに公開ハイキングを機会に2名が新会員として仲間に加わりました。

これから本格的な夏山シーズンに入りますが、今年の夏山は南アルプスの白峰三山や北アルプス・涸沢をベースにした山行などが計画されています。

皆さんの会でもさまざまな計画が練られていると思いますが、「明るく、楽しく、安全に！」、怪我や事故が無いうように心掛けて山行を楽しみたいものです。

事務局 八木原 記



今年度は既に公開ハイキング（那須・茶臼岳）やクリンハイキング（奥武蔵・伊豆ヶ岳）を実施しており、嬉しいことに公開ハイキングを機会に2名が新会員として

2010年 各会の夏山計画

*紙面の都合により、他の会の夏山計画は8月号で掲載します。

*こまくさ山の会

- 7/18 谷川岳（厳剛新道）
- 7/31～8/3 南ア・荒川三山～赤石岳
- 9/19～20 恵那山

*秩父山の会

- 7/17～19 白山（大宮合同）
- 7/13 奥秩父・南平山
- 7/29～31 北ア・剣岳
- 8/7～9 東北・鳥海山

*飯能労山

- 7/17(19) 信州・湯の丸山
- 7/31～8/2 上信越・雨飾山
- 8/7～8 東秩父・堂平山星空観察

*熊谷トレッキング

- 7/11 上越朝日岳
- 7/12 草津白根山
- 7/23 小松原湿原～苗場山
- 8/1～2 北海道・羊蹄山～ニセコ
- 8/21～23 中ア・木曾駒ヶ岳集中

*埜歩歩富士見山の会

- 7/11 東北・早池峰山
- 7/18～19 信越・高峰高原集中
- 7/31～8/1 尾瀬
- 8/6～9 北ア・船窪岳～烏帽子岳
- 8/21～22 富士山
- 8/28 両神・尾の内溪谷

*北本山の会

- 7/17～21 北ア・高瀬ダム～読売新道
- 7/17 丹沢・水無川本谷
- 7/25 奥秩父・瑞牆山
- 8/6～9 北ア・餓鬼岳7/13
- 8/25 奥秩父・釜の沢東俣沢

*上福岡山なみハイキングクラブ

- 7/13 北八ガ岳・縞枯山
- 8/1～3 北ア・常念岳～燕岳

*所沢ハイキングクラブ

- 7/22～25 北ア・燕岳～蝶ヶ岳
- 8/6～8 東北・鳥海山
- 8/18～22 北ア・雲の平～双六

*新座山の会

- 7/11 尾瀬
- 7/24～25 信越・黒姫山
- 8/22 信州・蓼科山

*大宮労山

- 7/11 上信越・野反湖周辺の山
- 7/17～19 加賀白山（秩父合同）
- 7/25 北海道・暑寒別岳
- 熊本・久住山、他

*富士見市峠山の会

- 7/13 北八ガ岳・縞枯山
- 8/21～22 東北・月山バスハイク

【編集後記】今月は発行が遅れてしまい、すみません。

さて、飯能勤労者山岳会創立から会の事務局長、また県連でも副会長やブロック長を歴任し多大な貢献をしていただいた坂下五郎さんが急逝されました。個性豊かで創造性も高く、またユニークである反面に登山運動に対しての気質や信念、勤労者山岳会としてのこだわりを持った彼！

うちは年老いた「飯能老山」ですから…と笑わっていた昨日が懐かしく思い出されます。

謹んでご冥福をお祈りいたします

合掌



2010年 全国ハイキングリーダー学校

参加者 募集中！

日時 9月18日(土)14:00～20日(祝)10:30
(2泊3日)

場所 群馬県・湯浅温泉もちや旅館
群馬県利根郡みなかみ町湯檜曾12 電話0278-72-2480

参加費 2万2千円(2泊5食) 労山会員外は2万4千円